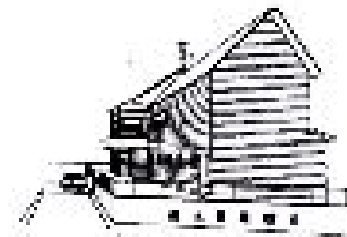


今朝の聖書から

20:25に“あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。”とあります。主イエスは、次の節で“そうであってはならない”と教えられます。一言で“そうであってはならない”といっても、直接その言葉を“救いの福音”として受け止めることができるでしょうか。世の中すべて、何らかの権威や力があって、それによって治められているようです。会社も学校も、教会ですら、信仰上の権威をめぐる、人と人の戦いの場所になってきました。そして沢山の人が悩みました。権力欲が世の中の不幸の大きな原因になっているのも事実だし、そのことは十分に分かっている。しかし、そう言っている当の本人が最も偉くなりたいと思っているのではないだろうか、と、一番謙遜な人々もそう思ってきました。このイエス様の言葉を福音として聞く必要があります。もちろん十字架の予告ですが、その特徴の第一は、たまたま起こった歴史上の不幸な出来事というのではなく、神様の計画に組み込まれた救いの出来事であったということです。また、その計画を十分に知っての、主の自発的な神様のパートナーとしての姿が描かれていることに心を留めましょう。ゼバダイの妻による願いは、22節に“わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりあなたはあなたの右に、ひとり左にすわれるように、お言葉をください。”とあるように、兄弟たちとの関係から出ていることに気が付きます（誰々よりも、という意味）。そして兄弟たちが怒っているのは、この願い出た母ではなく、この二人の弟子に対するものでした。イエス様は、地位を求めるといふ不幸な心の原因を指摘される代わりに、その代価を指摘されました。“罪許されるものは、神の計画に十分に参与しなければならない”というものでした。上流階級の教会と貧民の教会は関係を持つとうとせませんでしたし、南軍と北軍の従軍牧師は“我が方の勝利”を祈りましたし、白人と黒人は別の教会に集いました。このような中でも諦める必要はないし、主が勝利して下さったという一点に於いて、寂しい心になる必要もないのです。

週報

2009年 3月 29日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26
☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp